

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 北海道横断自動車道 根室線 本別～釧路 <small>ほんべつ くしろ</small>	事業区分 高速自動車国道 <small>道</small>	事業主体 国土交通省 北海道開発局												
起終点 自：北海道中川郡本別町共栄 <small>なかがわほんべつきょうえい</small> 至：北海道釧路市鶴野 <small>くしろつるの</small>		延長 65.0 km												
事業概要 北海道横断自動車道は、黒松内町を起点として、小樽市、夕張市、清水町、本別町等を経由し、根室市・網走市へ至る延長約694 kmの高速自動車国道である。 このうち本別～釧路間は、本別インターチェンジから釧路インターチェンジに至る延長65 kmの事業であり、高速ネットワークの拡充によるオホーツク圏と道央・十勝・釧路圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び物流の効率化の支援を目的とした道路である。														
H15年度事業化	H一年度都市計画決定	H16年度用地着手												
H16年度工事着手														
全体事業費	約2,072億円	事業進捗率												
		61%												
供用済延長	8.0 km													
計画交通量	5,500～6,300台/日													
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C</td> <td style="width: 20%;">総費用</td> <td style="width: 20%;">総便益</td> <td style="width: 20%;">基準年</td> </tr> <tr> <td>(事業全体) 1.6</td> <td>(残事業)/(事業全体) 784/2,165億円 （事業費：667/2,028億円 維持管理費：117/137億円）</td> <td>(残事業)/(事業全体) 3,359/3,453億円 （走行時間短縮便益：2,744/2,825億円 走行経費減少便益：504/513億円 交通事故減少便益：111/114億円）</td> <td>平成23年</td> </tr> <tr> <td>(残事業) 4.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	B/C	総費用	総便益	基準年	(事業全体) 1.6	(残事業)/(事業全体) 784/2,165億円 （事業費：667/2,028億円 維持管理費：117/137億円）	(残事業)/(事業全体) 3,359/3,453億円 （走行時間短縮便益：2,744/2,825億円 走行経費減少便益：504/513億円 交通事故減少便益：111/114億円）	平成23年	(残事業) 4.3				
B/C	総費用	総便益	基準年											
(事業全体) 1.6	(残事業)/(事業全体) 784/2,165億円 （事業費：667/2,028億円 維持管理費：117/137億円）	(残事業)/(事業全体) 3,359/3,453億円 （走行時間短縮便益：2,744/2,825億円 走行経費減少便益：504/513億円 交通事故減少便益：111/114億円）	平成23年											
(残事業) 4.3														
感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C=1.4～1.7 (交通量±10%) (残事業) 交通量 : B/C=3.9～4.7 (交通量±10%) 事業費 : B/C=1.6～1.7 (事業費±10%) 事業費 : B/C=4.0～4.7 (事業費±10%) 事業期間 : B/C=1.5～1.6 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C=4.0～4.3 (事業期間±20%)														
事業の効果等 事業の必要性及び効果 <ol style="list-style-type: none"> ①拠点都市間の利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市、帯広市と釧路市、根室市における、拠点都市間の利便性向上が期待される。 ②安定した輸送ルートの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・国道38号の狭小幅員トンネルや国道274号・国道392号の線形不良区間の回避により、安定的な輸送ルートの確保が期待される。 ③水産品の流通利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・釧路・根室地域で水揚げされるさんまの流通利便性向上が期待される。 ④救急搬送の安定性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・高次医療施設への救急搬送の安定性向上が期待される。 ⑤災害時の緊急輸送ルートの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における代替路の確保及び迅速な救急搬送や救援物資等の輸送に資する道路ネットワークの多重性が確保される。 ⑥CO₂排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車からのCO₂排出量21,299(t-CO₂/年)の削減が期待される。 														
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 釧路市・帯広市など6市14町村の首長等で構成される「北海道横断自動車道早期建設促進期成会」等より、早期整備の要望を受けている。 知事の意見： 高速ネットワークの拡充による道央・十勝・釧路圏の連絡強化により地域間交流の活性化や物流の効率化が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。														

なお、事業の実施にあたっては、平成2年12月3日付け道路第1322号「北海道横断自動車道小樽釧路線（阿寒町～釧路市間に係わる環境影響評価準備書に関する意見について）」の知事意見を遵守すること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。なお、3便益以外の地域の特殊性等を考慮した便益について、引き続き検討されたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成15年6月 北海道横断自動車道 池田IC～本別IC、本別JCT～足寄IC供用
- ・平成17年10月 釧路市、阿寒町、音別町が合併し釧路市が誕生
- ・平成19年2月 釧路新道 全延長8.8kmのうち7.7km供用
- ・平成21年11月 北海道横断自動車道 本別IC～浦幌IC供用
- ・平成23年5月 釧路港が国際バルク戦略港湾（穀物）に選定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成16年度に工事着手して、用地進捗率52%、事業進捗率61%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

橋梁工の見直しや縦断線形の見直しによりコスト縮減対策に取り組んでいる。

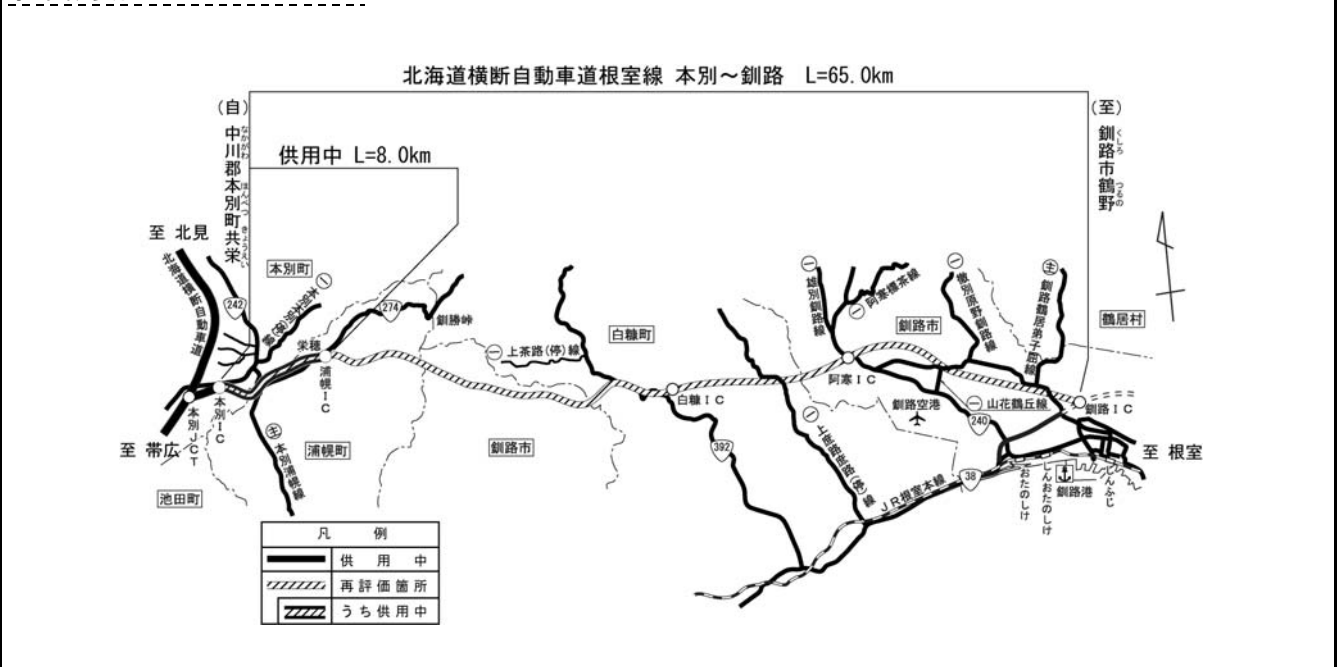
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。